

## 多くの監督たちとの出会い

日本の映画史に残る 90 人を越える監督たちと仕事をしました。

思い出深い作品の監督をあげると最初に山本薩夫監督です。『戦争と人間』、『華麗なる一族』、『金環蝕』、『あゝ野麦峠』などで人間の生きる執念(※64)のようなものを教えられました。

山田洋次監督の作品では『家族』、『幸せの黄色いハンカチ』、『故郷』、『遙かなる山の呼び声』などがあります。監督の語り口は落語そのもので、続いて出てくる言葉がわかるのです。でもおかしい、だから素直な音楽でないと合いませんでした。

※64 執念

しゆうちやく はな  
執着して離れない心。

しのだ まさひろ かんとく さっぼろ  
篠田正浩監督の作品は『札幌オリンピック』です。ドキュ  
メンタリーえいぞうの映像ですから、内容は厳しくリアルなものです。  
そこで、思い切り非現実的ひげんじつてき(※65)な音楽をつけることを心がけ  
ました。

さいご おかもと きはち かんとく  
最後に岡本喜八監督の作品は『日本のいちばん長い日』、  
『肉弾』にくだん、『江分利満氏の優雅な生活』えぶり としみつ ゆうがなどで仕事をしまし  
たが、一番の思い出は『独立愚連隊』どくりつ ぐれんたい、『独立愚連隊西へ』どくりつ ぐれんたい  
でした。この時は非現実的ひげんじつてきな軍隊ぐんたいの話ですから、音楽はパロ  
ディーいさ(※66)風にし、勇ましい音は一切使いませんでした。

ひげんじつてき  
※65 非現実的

げんじつ  
現実にはありえないさま。

※66 パロディー

きせい とくちょう たく  
広く知られている既成の作品を、その特徴を巧みにとらえて、こっけい  
ふうしか もくてき か  
化・風刺化の目的で作り変えたもの。広く音楽などの作品にもいう。